

5章 地域別行動計画

ここでは、地域のコミュニティが主体となって取り組むべき地域別行動計画への取り組み方について整理します。

地域別行動計画とは・・・

市民のみなさんが、自分たちの地域の環境を良くするために、地域全体で取り組んでいく行動計画で、地域のみなさんが主体的に検討・作成し、実践していくものです。

■本章の構成

本章では、地域のコミュニティ等が主体となって計画を立てる際の取り組み方法について整理するとともに、実際に計画を立てる際に参考とするため、3つのエリア区分（山村、中山間地、平地）と8つの流域区分（迫川、二迫川、三迫川、金流川、夏川、荒川、小山田川、落堀川）から分類された5つのモデル別に地域別行動計画の事例について参考事例を示しています。

1. 地域別行動計画への取り組み方

地域別行動計画への一般的な取り組み方法について整理しました。

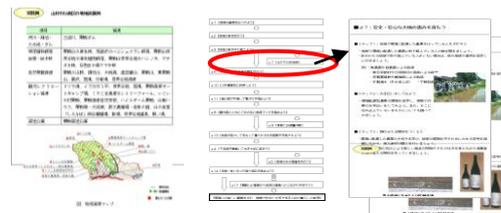
2. 地域のモデル分類

地域を3エリア・8流域の区分から5つのモデルに分類し、エリア毎の一般的な現況や課題、流域毎の配慮指針について整理しました。

3. 地域別行動計画事例

モデル毎の地域別行動計画の事例について示しました。

- (1) 山村モデル
- (2) 中山間地モデル
- (3) 平地モデル
- (4) 中山間地・平地モデル1
- (5) 中山間地・平地モデル2



1. 地域別行動計画への取り組み方

地域が主体となって取り組むべき配慮行動については、地域住民が地域の環境特性や課題を自ら把握し、その解決の手段について主体的に考えながら行動計画を策定し、取り組んでいくものとして位置付け、取り組み方のアイデアについて、事例をまじえ整理しました。

その取り組みの単位は、地域コミュニティに着目し、自治会単位、または複数の自治会がまとまった単位などで地域住民が主体となって取り組むものとします。

実際に地域住民が取り組む際には、各流域別の配慮指針を念頭に置きながら、自分たちの地区が該当する地域において、各事例を参考にしながら計画づくりを行うこととなります。

■手順1：地域をみつめてみよう

地域の現況や課題、地域の資源について、地域で活動している人や環境に関心がある人などを募り考えてみよう。（地域の人だけでなく、外部の目を活用できれば、地域の人では当たり前すぎて気付かない部分に気付くこともあります。）

現地確認などを行いながら、地域の課題解決のために自分達で何が出来るかを検討してみよう。（2. 地域のモデル分類などを参考に検討してみよう。）

■手順2：地域課題解決のための目標を設定しよう

地域の資源や課題などから、目指すべき目標について検討しよう。

■手順3：地域プロジェクト（地域での取り組み）を考えよう

目標達成に向けて、地域資源を活用した取り組みを考えてみよう。（取り組みの目的や地域のあるべき姿などを考えながら地域プロジェクトを検討することが大切です。）

目標像を明確化して、地域で情報の共有化を図ろう。

■手順4：みんなで協力して取り組んでみよう

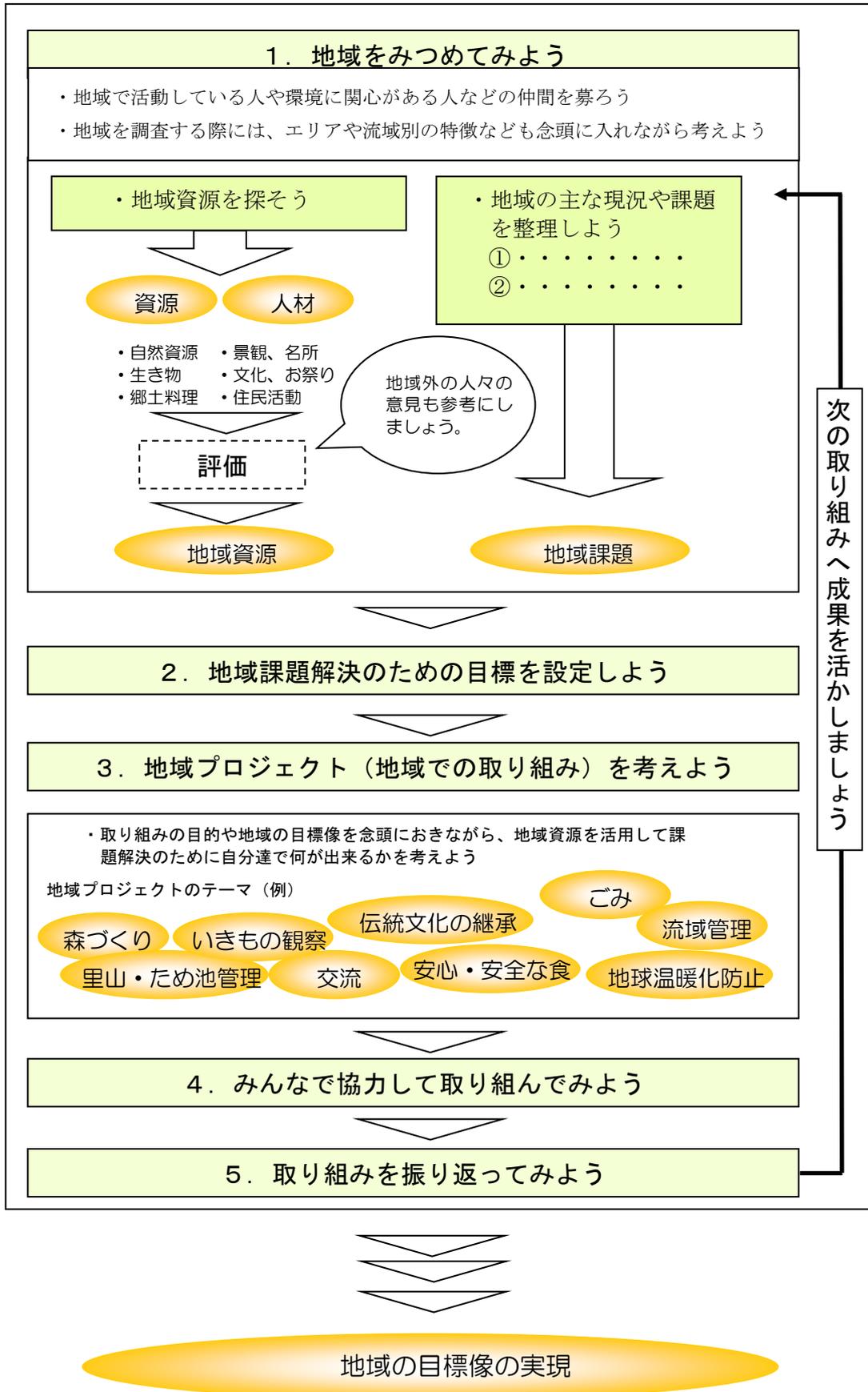
出来ることから取り組んでいこう。

■手順5：取り組みを振り返ってみよう

取り組みを振り返り、課題や新たに気がついたことを次の取り組みに活かしていこう。（手順1へ）

次頁に取り組みイメージを示します。

■取り組みイメージ

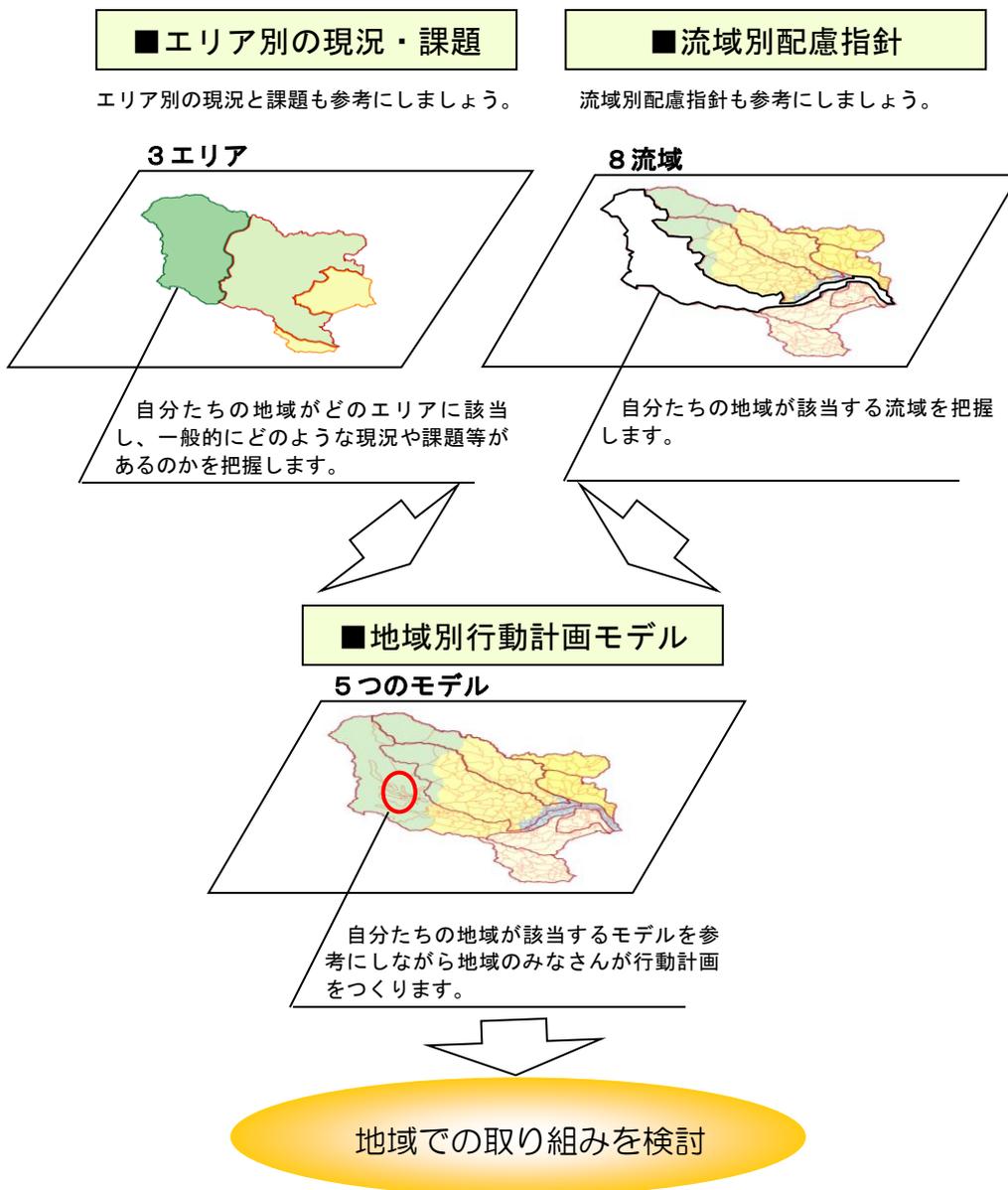


2. 地域のモデル分類

地域別行動計画を検討するにあたって、3つのエリア区分（山村、中山間地、平地）と8つの流域区分（迫川、二迫川、三迫川、金流川、夏川、荒川、小山田川、落堀川）から5つのモデルに分類し、流域の視点も重要であることから、流域別配慮指針についても示しました。

(1) 地域課題などの検討について

自分たちの住んでいる地域が該当するエリアや流域別配慮指針、モデル事例を参考に検討していきましょう。



地域のモデル分類

流域 エリア	迫川、二迫川、三迫川	金流川、夏川	荒川（伊豆沼・内沼含む）、 小山田川	落堀川
山村 エリア	a. 山村モデル			
中山間地 エリア	b. 中山間地モデル	d. 中山間地・平地 モデル1	e. 中山間地・平地 モデル2	
平地 エリア	c. 平地モデル	※1	※2	

※1 金流川、夏川流域と荒川（伊豆沼・内沼含む）流域、小山田川流域は、生活圏レベルにおける中山間地と平地の境界を区切りにくいこと、及び面積もそれほど広くないことから、中山間と平地を合わせて一つのモデルとした。

※2 落堀川流域は、荒川（伊豆沼・内沼含む）流域の平地エリアと連続する平地であること、荒川の洪水調節機能の関連から落堀川の水が伊豆沼に流入することもあるので、荒川（伊豆沼・内沼含む）流域、小山田川流域の平地と結合させることとした。

■モデル分類図



(2) エリア別の現況と課題

エリア別の一般的な現況と課題は以下のとおりです。

エリア別の現況と課題

エリア	現況・課題
山村エリア	<p>■現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブナやミズナラの自然植生が残っています。 ・スギやアカマツの植林など山の利用が見られます。 ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。 ・栗駒国定公園を始め、自然が豊かで多くの観光資源があります。 ・市内外から多くの観光客が訪れます。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の適正な維持管理 ・自然景観の維持・保全 ・ごみの不法投棄対策 ・水環境意識の向上 ・環境全般に対する意識向上 ・観光客のモラル向上 ・ダム湖の水質改善 ・高齢化対策
中山間地 エリア	<p>■現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田や畑地などの農地部分とマツやスギなどの植林地からなる丘陵地帯となっています。 ・河川沿いには多くの巨樹が残されています。 ・歴史・文化資源、資料館などが整備されており、郷土文化を知ることが出来ます。 ・河川沿いに水田が分布し、各支川の上流部にはため池が多く残されていますが、管理が不十分なところが多くなっています。 ・昔ながらの街並みなどが比較的多く残されています。 ・生活排水の処理には、合併処理浄化槽の設置や公共下水道への接続が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池の維持管理 ・ごみの不法投棄対策 ・農業における担い手不足 ・河川の水質改善 ・休耕田、遊休農地の有効活用 ・高齢化対策
平地エリア	<p>■現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地のほか、水田や畑地などの農地が多い地域となっています。 ・交通網が整備されており居住者が多く、生活や経済活動の中心的地域となっています。 ・水田が広く分布しており、田園風景を形成しています。 ・市街地では地域への関心が低くなってきています。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川及び湖沼の水質改善 ・生物の多様性の確保 ・ごみの分別の徹底 ・地域活動に対する住民の関心低下 ・自然とふれあう場の確保 ・ごみの不法投棄対策 ・休耕田、遊休農地の有効活用

(3) 流域別の配慮指針

流域別の配慮指針は以下のとおりです。

次頁以降にモデル別の地域別行動計画の事例を示します。

流域別の配慮指針

流 域	配 慮 指 針
流域共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の環境意識の向上に努めましょう ・ 下流域へ配慮した水の利用を行いましょ ・ 河川、湖沼の水質改善に配慮しましょ ・ 野生動植物の生息環境の保全に努めましょ ・ 環境保全型農業に取り組みましょ ・ 河川、ため池、用水路などの水環境の保全と水辺利用、多面的な機能の価値を高めていしましょ ・ ごみの分別、減量化に取り組みましょ
迫川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム湖の水質改善に向けて取り組みましょ ・ 上流部に残る豊かな自然環境の保全に努めましょ
二迫川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム湖の水質改善に向けて取り組みましょ ・ 上流部に残る豊かな自然環境の保全に努めましょ
三迫川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム湖の水質改善に向けて取り組みましょ。 ・ 上流部に残る豊かな自然環境の保全に努めましょ ・ 地域外の人々と連携した環境保全活動に取り組みましょ
金流川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山地域の生活基盤の継承に配慮しましょ ・ 田園景観を活かした環境保全を行いましょ
夏川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山地域の生活基盤の継承に配慮しましょ ・ 田園景観を活かした環境保全を行いましょ ・ ゲンジボタルの生息環境に配慮しましょ
荒川流域 (伊豆沼・内沼含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆沼・内沼の水質改善に向けて取り組みを行いましょ ・ 渡り鳥と共生した取り組みを行っていしましょ ・ 田園景観を活かした環境保全を行いましょ ・ 地域外の人々と連携した環境保全活動に取り組みましょ
小山田川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下流の蕪栗沼に配慮した取り組みを行いましょ ・ 田園景観を活かした環境保全を行いましょ
落堀川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田園景観を活かした環境保全を行いましょ ・ 伊豆沼・内沼の渡り鳥の餌場としての水田に着目して取り組みましょ

3. 地域別行動計画事例

ここでは、5つのモデル別に一般的な地域の現況や課題等を挙げながら、その地域での課題解決のためにこういった取り組みが考えられるのか、進め方の事例をまとめて示しています。

(1) 山村モデルにおける地域別行動計画事例

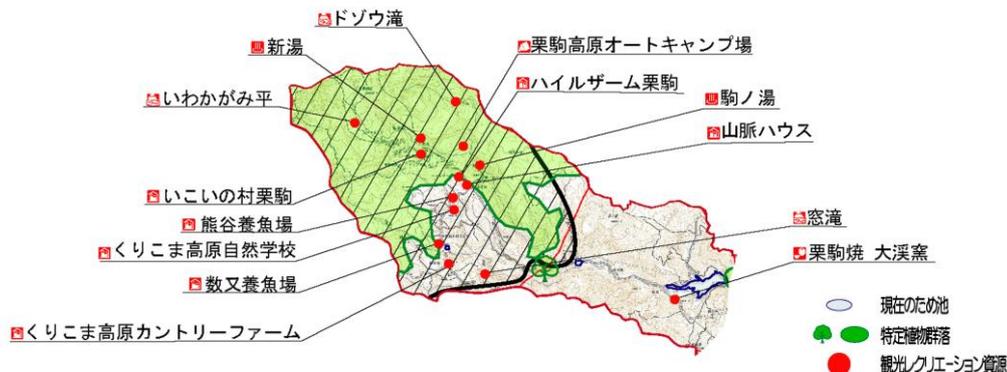
① 地域の主な現況・地域資源及び課題と課題解決のための目標像

■ 現況

- ・ブナ林やスギ、アカマツなどの植林地が広がっています。
- ・地区ごとに清掃活動や草刈り、植栽などの環境美化活動が行われています。
- ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置が進んでいますが、直接放流を行っている地区もあります。
- ・栗駒国立公園を始め、自然、景観、観光資源が多い地区で、そのため観光客のごみのポイ捨ても多く見られます。

■ 地域資源

項目	資源
河川・湖沼・ため池・ダム	三迫川、栗駒ダム
特定植物群落 巨樹・巨木林	栗駒山の原生林、栗駒山世界谷地の湿生植物群落、栗駒山世界谷地のハンノキ、ヤチダモ林、石抱きの森ケヤキ林、川台山の植物群落
自然景観資源	栗駒火山群、揚石山、大地森、虚空蔵山、栗駒山、東栗駒山、裏沢、窓滝、行者滝、世界谷地湿原
観光レクリエーション資源	ドゾウ滝、いわかがみ平、世界谷地原生花園、窓滝、栗駒高原オートキャンプ場、くりこま高原カントリーファーム、いこいの村栗駒、栗駒高原自然学校、ハイルザーム栗駒、山脈ハウス、栗駒焼 大溪窯、数又養魚場、熊谷養魚場、新湯、駒ノ湯
国立公園	栗駒国立公園



地域資源マップ

■ 課題

- ・ 山林の維持管理
- ・ 二迫川、三迫川や栗駒ダム、荒砥沢ダムの水質の改善
- ・ 多様な生物が生息する、栗駒山の豊かな自然環境の保全
- ・ 栗駒の自然環境を活かした野外体験、環境学習の活性化
- ・ 観光と連携した農業の活性化
- ・ 下流域との交流を通じた日常生活における水環境の見直し
- ・ ごみの不法投棄対策

■ 目標像

『栗駒山の美しい景観を守り、 健康で安全に生活できる山村の暮らしの実現』

観光業と連携を図り、住民、観光客が一体となって栗駒山の自然環境や景観を守り、活かし、いつまでも安心して暮らせる環境を目指します。

② 地域プロジェクト（例）

地域の取り組みを進めていくにあたり、山村モデルで考えられる具体的活動例を以下に示します。

地域の目標像の実現に向けて、取り組みやすいところから実践していきましょう。

1. 自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保

a 1 【地域の資源を見つけよう】

- ・ 自分たちが住んでいる地域の環境や地域資源、観光資源、貴重な自然環境等について理解を深めるために、地域資源調査を実施し、あわせて、水害対策や道路整備の不十分な箇所など、生活する上で問題となっている点についても考えてみましょう。
- * 『くりはら磨き隊』、『栗駒の自然を守る会』などの既存団体との連携

a 2 【地域の森を知ろう】

- ・ 地域の自然保護団体や専門家から、森の役割や大切さ、生活との繋がりなどについて、観察会や野外作業などを通して学ぶ機会をつくりましょう。
- ・ 情報発信拠点を作り、様々なメディアを使って広く地域外の人にも栗駒の自然やイベントなどを伝えていきましょう。
- ・ 地域の美しい自然や動植物の姿を写真展や絵画展を通して、多くの人に知ってもらいましょう。
- ・ 地域の森を守る取り組みを行っている個人や団体の活動内容を多くの人に伝え、森の大切さを伝えましょう。

5章 地域別行動計画

a 3 【地域の森を守り育てよう】

- ・良質で豊かな水を生む水源の森を大切に守り育てる取り組みを広げましょう。
- ・植樹祭やその他のイベントを通して、森の育成や管理体制づくりを行いましょう。
- ・小学校等と連携し、植樹用の樹木を種子から育て、森づくりに活かす取り組みを進めましょう。（樹木の里親制度）
- ・企業との連携や地域外の山の資源（山菜や薪など）の利用者との連携を含め、森づくりを次世代に繋げるための仕組みづくりを進めましょう。
- ・流域周辺の人々にも森づくりへの参加・協力を呼びかけ、同じ水源を持つ流域住民が協力して森づくりに取り組む体制づくりを進めましょう。
- ・間伐材などの有効利用を推進しましょう。

a 4 【下流域を意識して水を大切に使う】

- ・ダム湖の水質については、第一段階として環境基準を達成することを目標とし、各戸においては、合併処理浄化槽の設置や下水道への接続を進めるとともに、家庭でできる水質浄化のための取り組みを実践し、河川の水質向上を図りましょう。
- ・農薬の低減などにより農業排水が河川等に与える環境負荷の低減に努めましょう。
- ・流域に暮らす人々が安心して水を使えるよう、住民一人ひとりが限りある水資源を無駄にせず、大切に使う意識を高めましょう。

a 5 【地域の水の価値を知ろう】

- ・河川の水質汚濁が人々の健康に与える影響や水質改善のための費用、水源地域の現状を把握し、水質汚濁と生活との関係について考えましょう。
- ・水質や水量などについて、専門家や各分野の人から正しい知識を得て、地域の水の価値を多くの人に広めましょう。

※ a 4 【下流域を意識して水を大切に使う】と連動

2. 生物の多様性の確保

a 6 【多様な生物の生息空間を守ろう】

- ・様々な生物の生息空間である栗駒や花山の自然環境を守っていくため、森林の保全活動等に積極的に参加し、多様な生物の生息空間を守っていきましょう。
- ・希少野生生物の保護に取り組みましょう。
- ・地域住民やレクリエーション施設等利用者の参加による環境保全活動を推進しましょう。

3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出

a 7 【はたちの記念樹】

- ・小学校の卒業記念として、6年生で栗駒山に植樹を行い、その記念のブナなど広葉樹の種子を家庭で育て、20歳になった時に育てた苗の記念植樹を行うなど、体験を通して、子供が自然や地域と関わりを持ち、環境について考える機会をつくりましょう。
- ※ a 3 【地域の森を守り育てよう】と連動

4. 資源やエネルギーを大切にした循環の仕組みづくり

a 8 【観光客とともにごみのない地域づくりを進めよう】

- ・地域住民だけでなく、観光客に対しても環境意識の高揚を図り、ごみの不法投棄やポ

イ捨ての防止の啓発に取り組みましょう。

- ・ごみのポイ捨てをなくすための看板の設置、捨てやすい場所をつくらないなどの取り組みを進めましょう。また、観光地の良好な景観を阻害しないよう看板がなくてもごみの投棄がなくなるように努力しましょう。

a 9 【家庭ごみ減量作戦】

- ・市内の家庭ごみの排出量や処分方法、回収・処分にかかる費用などの実態を把握し、ごみへの関心を高めましょう。
- ・家庭ごみ減量のために取り組むべきことを考え、地域全体のごみの減量化に努めましょう。

5. 環境にやさしい産業の創出

a 10 【山を積極的に利用しよう】

- ・山菜や薪などの山の資源を活かし、観光業との連携を含め、地域の産業として確立させるための仕組みづくりを進めましょう。
- ・環境に配慮した産業として地場産品の価値を高めるとともに、担い手の育成や地域の活性化に繋がる仕組みづくりを進めましょう。

6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成

a 11 【森の遊びを通して繋がりを深めよう】

- ・栗駒の自然を活かした森の遊びや生活体験などのプログラムを通して、市内外の人々との交流を深め、地域の人とのパートナーシップづくりを進めましょう。
- ・森の遊びや暮らしを教えてくれる地域の人々や場所などの情報を集め、広く情報を発信するための仕組みづくりを進めましょう。

7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画

a 12 【栗駒山の環境から地球の環境とのつながりを知ろう】

- ・栗駒山の雪を観察し、地球温暖化との関係や農作業との関係を調べ、その情報を世界に発信することで、国際的な情報の交流を図りましょう。

8. コミュニティを核とした推進体制づくり

a 13 【地域が協力して安心して暮らせる生活基盤を充実させよう】

- ・a 1 【地域の資源をみつけよう】で挙げた地域の問題点について、改善策を考えてみましょう。
- ・地域で解決できること、市に働きかけるべきことなどに分け、それぞれ取り組んでいきましょう。
- ・現在も行われている地域の行事やお祭りなどを通して、地域住民のつながりを強め、住民同士が助け合い、安心して暮らせる生活環境の実現や地域活動に対する積極的な取り組みのための体制づくりを進めましょう。

※ a 1 【地域の資源をみつけよう】と連動

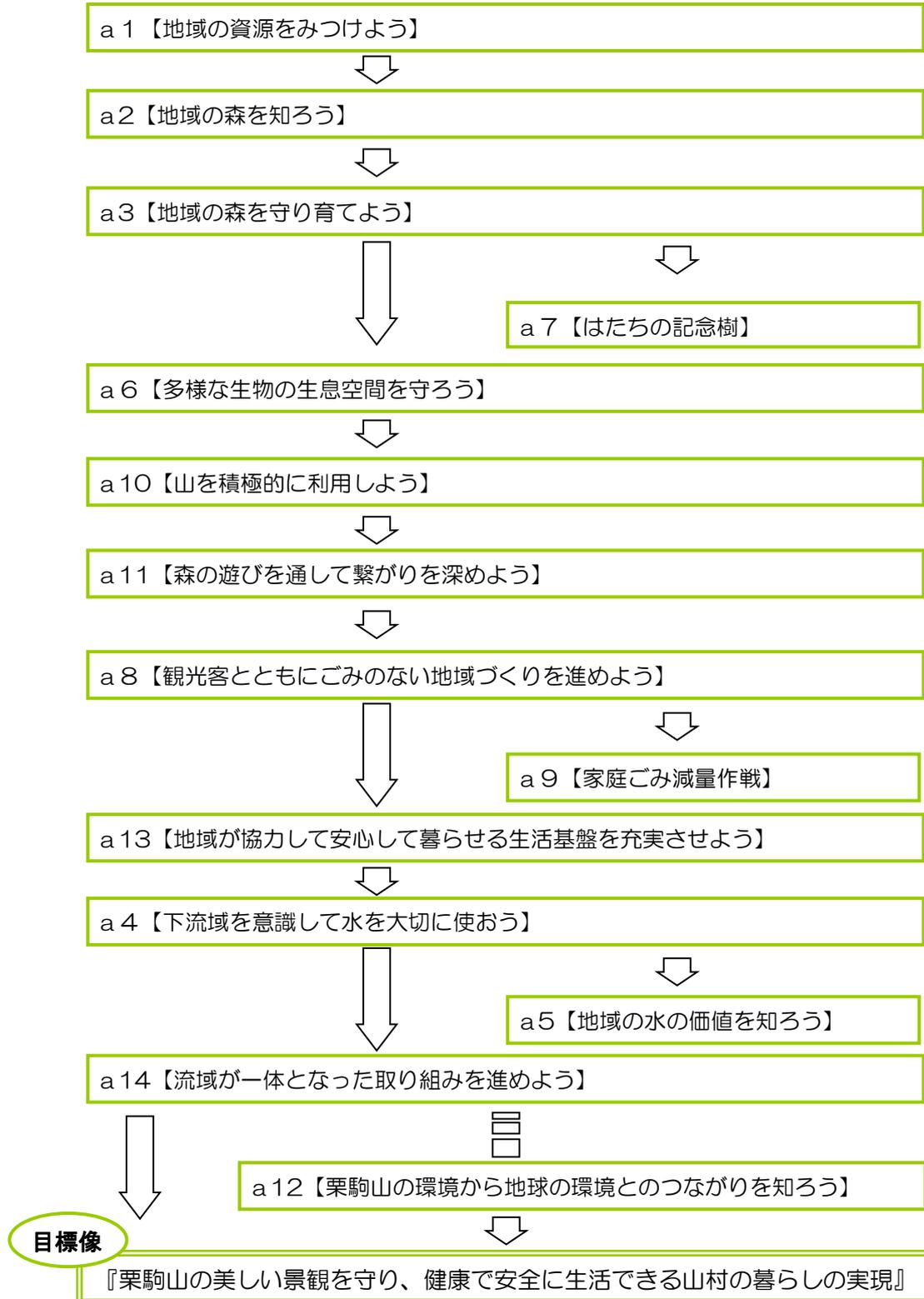
a 14 【流域が一体となった取り組みを進めよう】

- ・河川の中・下流域の環境の現状を理解し、河川の環境改善に向け、流域全体における交流を深め、住民の連携による保全活動のための体制づくりを進めましょう。

5章 地域別行動計画

③ 目標像に向けたプロジェクトの進め方の例

個別の地域プロジェクトを段階的に実践した場合の進め方の例を以下に示します。地域の実情に合わせて目標像の達成に向けた進め方を検討してみましょう。



(2) 中山間地モデルにおける地域別行動計画事例

① 地域の主な現況・地域資源及び課題と課題解決のための目標像

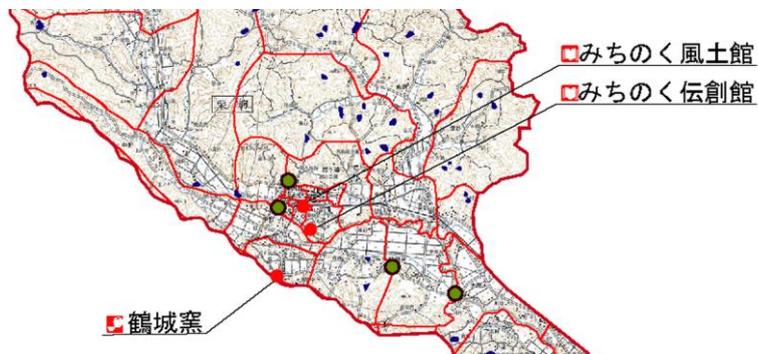
■ 現況

- ・三迫川の中流にあたり、栗駒地区の中心は住宅地が形成されています。
- ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置や公共下水道への接続が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。
- ・井戸が多くあり、作業水のほか、飲み水としても利用されています。
- ・ため池や共有林は多くが管理されていますが、一部管理されていないものもあります。
- ・遊休農地の管理が不十分な地区もあります。
- ・台風時のダムの放流により、樋ノ口窪は水害で農作物に被害を受けることがあります。
- ・地区ごとに清掃活動や草刈り、植栽などの環境美化活動が積極的に行われています。
- ・玉ノ井堤防の桜についても、老木や害虫に対する保護活動が住民によって行われています。
- ・生活道の整備が不十分な地区もあります。

■ 地域資源

項目	資源
河川・湖沼・ため池・ダム	三迫川、木鉢川、山田川、ため池
特定植物群落 巨樹・巨木林	イチョウ（洞松院）、ケヤキ（館山寺）、スギ（青雲神社）、イチョウスギ（八坂神社）
観光レクリエーション資源	みちのく風土館、みちのく伝創館、鶴城窯

- 現在のため池
- 特定植物群落
- 巨樹
- 観光レクリエーション資源



地域資源マップ

■ 課題

- ・三迫川の水質改善
- ・水害対策などの河川環境の整備
- ・生活道の整備
- ・農業における担い手不足、高齢化対策、遊休農地の管理
- ・ため池の維持管理

■ 目標像

『地域資源を活かしながら、地域住民が 協力してつくる里山の充実した暮らしの実現』

昔から地域の人々に愛されてきた、自然の景観や資源を活かし、地域住民が協力して、安全、安心で充実した生活環境をつくることを目指します。

② 地域プロジェクト（例）

地域の取り組みを進めていくにあたり、中山間地モデルで考えられる具体的活動例を以下に示します。

地域の目標像の実現に向けて、取り組みやすいところから実践していきましょう。

1.自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保

b 1 【地域の資源をみつけよう】

- ・自分達が住んでいる地域の環境や地域資源について理解を深めるために、地域資源調査を実施していきましょう。
- ※ a 1 【地域の資源をみつけよう】 参照

b 2 【生活に密着した里山の自然を守ろう】

- ・里山の景観を構成する要素となる、ため池や共有林などを利用者以外の住民も協力して保全を行う体制づくりを進めましょう。
 - ・里山の自然を生活の中での利用だけでなく、地域内外との交流の場として利活用していくための仕組みづくりを進めましょう。
- ※ d 2 【地域の生活とかがわりが深い里山の環境基盤をみんなで守ろう】 参照

b 3 【復活！！みどりプロジェクト】

- ・地域の産業であった鉱山や人々の生活を支えた鉄道などの跡地について、歴史的価値を見直し、地域の歴史資源としての価値を高めるとともに、緑化を進めるなど環境の保全に努めましょう。
- ・地域の歴史資源の有効な利活用と次世代に引き継ぐための体制づくりを進めましょう。

b 4 【下流域を意識して水を大切にしよう】

- ・河川の水質の維持向上を図るため、家庭における合併処理浄化槽の設置や下水道への接続を進めましょう。
 - ・農薬の低減などにより農業排水が河川等に与える環境負荷の低減に努めましょう。
 - ・流域に暮らす人々がおいしい水、安心して使える水を得られるよう、住民一人ひとりが限りある水資源を無駄にせず、大切に使う意識を高めましょう。
- ※ a 4 【下流域を意識して水を大切にしよう】 参照

2. 生物の多様性の確保

b 5 【ため池をリフレッシュしよう】

- ・かつて農作業の一環として行われていたため池の池さらいを実施し、ブラックバス対策を行うとともに、ため池の存在価値を見つめなおし、活用しましょう。
 - ・子供たちの参加により、ため池と農業、生活との関わりを学ぶ機会をつくりましょう。
 - ・ため池を活用した地場産品の創出を図りましょう。
- ※ b 2 【生活に密着した里山の自然を守ろう】 と連動

3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出

b 6 【里山の伝統文化を継承しよう】

- ・里山の農作業やお祭りなどの行事を通して、地域に伝わる伝統文化や技術、郷土料理などを地域の子供たちが学ぶ機会をつくりましょう。
 - ・地域外からの参加者や協力者とも連携を含め、広域的な交流を広げ、地域の伝統文化を次世代に繋げていくための仕組みづくりを進めましょう。
- ※ b 2 【生活に密着した里山の自然を守ろう】、b 5 【ため池をリフレッシュしよう】 と連動

4. 資源やエネルギーを大切にしたい循環の仕組みづくり

b 7 【ごみのない美しい里山をつくろう】

- ・誰もが自慢のできる里山の自然景観を守るため、地域内の河川敷などにおけるごみ拾いや緑化などの環境美化活動に参加しましょう。
 - ・ごみのポイ捨てをなくすための看板の設置、捨てやすい場所をつくらないなどの取り組みを進めましょう。
 - ・パトロールによる景観保全に努めましょう。
 - ・環境保全活動を住民が主体となって継続していくための体制づくりを進めましょう。
- ※ d 5 【ごみのないきれいな街並みを残そう】 参照

b 8 【家庭ごみ減量作戦】

- ・市内の家庭ごみの排出量や処分方法、回収・処分にかかる費用などの実態を把握し、ごみへの関心を高めましょう。
 - ・家庭ごみ減量のために取り組むべきことを考え、地域全体のごみの減量化に努めましょう。
- ※ a 9 【家庭ごみ減量作戦】 参照

5章 地域別行動計画

b9【地球温暖化防止に取り組もう】

- ・地球全体の温暖化の現状や防止のための取り組みなどを学び、一人ひとりができることを実践していきましょう。
- ・地球温暖化の現状や配慮行動を多くの人に伝え、取り組みを広げましょう

5. 環境にやさしい産業の創出

b10【栗原が育む大地の恵みを発信しよう】

- ・低農薬、無農薬などの環境に配慮した農業を促進し、地場産品の高付加価値化により、農業の活性化を図りましょう。
- ・農業体験や農村生活体験プログラムなどの実施により、地域外との交流を図り、担い手の育成に努めましょう。
- ・バイオエネルギー用植物などの栽培により、遊休農地の活用を図りましょう。

6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成

b11【地域資源を来訪者に知ってもらおう】

- ・農業体験や農村生活体験など、地域の資源を活かした広域的な交流の活性化を図りましょう。
- ・農業体験等を実施している農家と連携し、多くの人に地域の魅力を発信する仕組みづくりを進めましょう。

7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画

b12【地球温暖化と稲作の関係を調べよう】

- ・田植えの時期や収穫量、害虫の状況などについて、昔との違いや変化を調べ、気候変動との関係を考えながらデータを集めましょう。
- ・米を主食とする東南アジアなどの他の国での稲作における変化や気候変動の影響を調べながら、国際的な情報の交流を図りましょう。

8. コミュニティを核とした推進体制づくり

b13【地域が協力して安心して暮らせる生活基盤を充実させよう】

- ・b1【地域の資源をみつけよう】で挙げた地域の問題点について、改善策を考えてみましょう。
- ・地域で解決できること、市に働きかけるべきことなどに分け、それぞれ取り組んでいきましょう。
- ・現在も行われている地域の行事やお祭りなどを通して、地域住民のつながりを強め、住民同士が助け合い、安心して暮らせる生活環境の実現や地域活動に対する積極的な取り組みのための体制づくりを進めましょう。

※ a13【地域が協力して安心して暮らせる生活基盤を充実させよう】参照

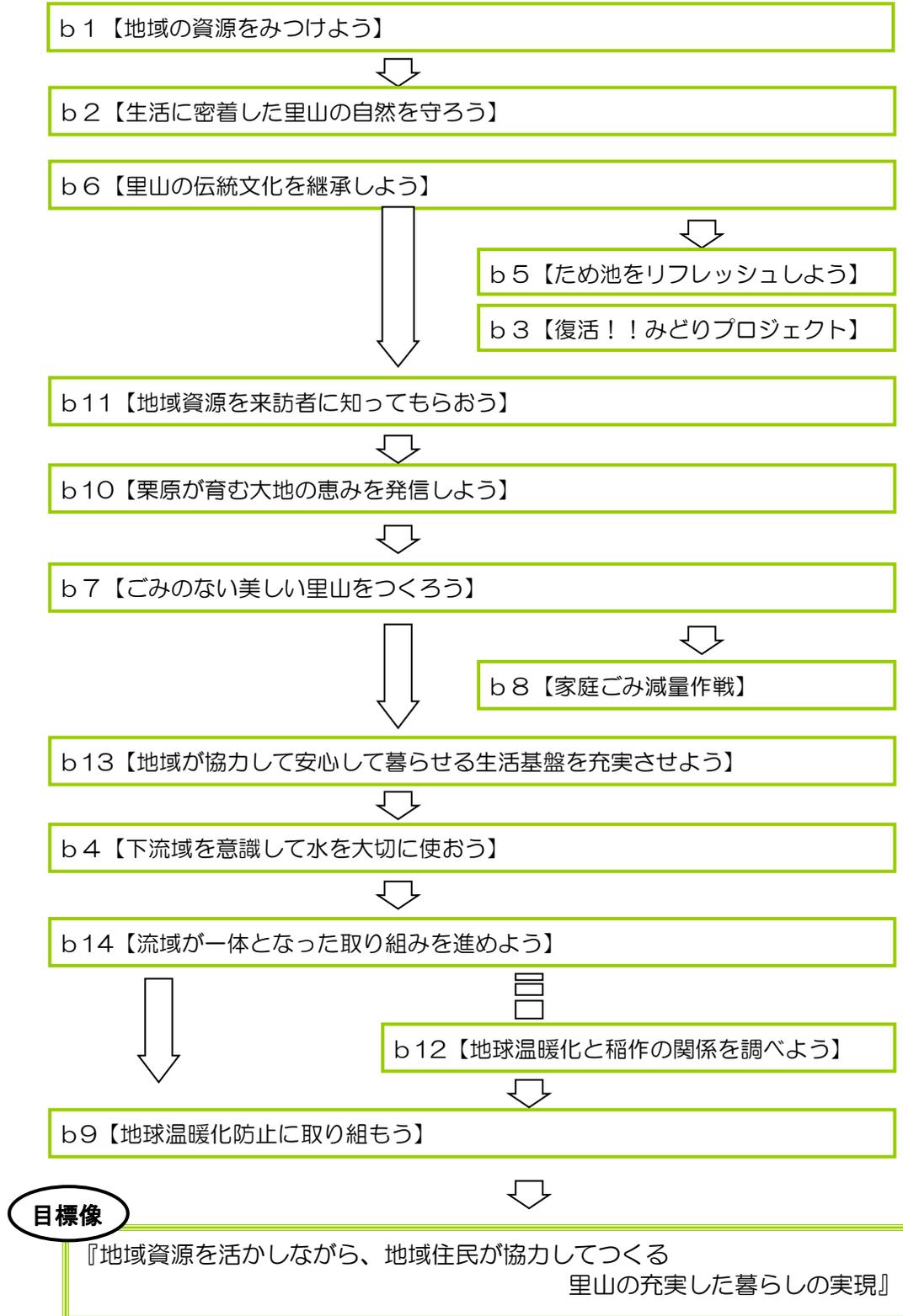
b14【流域が一体となった取り組みを進めよう（三迫川、上・下流域との交流による流域一体となった取り組みの体制づくり）】

- ・河川上流域、河川下流域の環境の現状を理解し、河川の環境改善に向け、流域全体における住民の連携による保全活動のための体制づくりを進めましょう。

※ a14【流域が一体となった取り組みを進めよう】参照

③ 目標像に向けたプロジェクトの進め方の例

個別の地域プロジェクトを段階的に実践した場合の進め方の例を以下に示します。地域の実情に合わせて目標像の達成に向けた進め方を検討してみましょう。



(3) 平地モデルにおける地域別行動計画事例

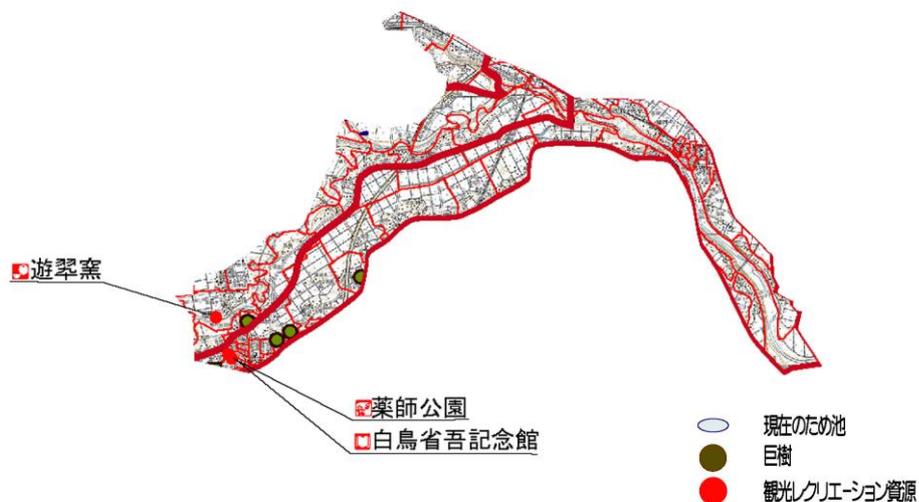
① 地域の主な現況・地域資源及び課題と課題解決のための目標像

■ 現況

- ・この地域は栗原市の中心市街地にあたり、居住者が多く、生活や経済活動の中心的地域となっています。
- ・若柳地区の中心地区では住宅地が広がり、市内における迫川の下流部にあたり、迫川沿いには水田が分布しています。
- ・井戸が多く残されており、作業用水として利用されているほか、飲み水としても使われています。
- ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置や公共下水道への接続が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。
- ・ごみ集積所の整備が不十分な地区もあります。
- ・地区ごとに清掃活動や草刈り、植栽などの環境美化活動が行われています。
- ・地中熱利用や雨水再利用などの省エネシステムを備えた、栗原市立若柳病院が立地しています。

■ 地域資源

項目	資源
河川・湖沼・ため池・ダム	迫川
特定植物群落 巨樹・巨木林	ケヤキ・スギ・イチョウ（鹿島神社）、イチョウ（興福寺）
文化財等	薬師堂の姥杉、熊野神社の大杉、旧平野神社のめおと銀杏
観光レクリエーション資源	薬師公園、白鳥省吾記念館、遊翠窯



地域資源マップ

■ 課題

- ・河川の水質改善と飲料水の水質向上
- ・ごみの不法投棄対策と集積所の美観整備
- ・地域内のコミュニケーションの活性化
- ・農業における担い手不足
- ・高齢化対策
- ・生物の多様性の確保

■ 目標像

『小さな環境保全活動から始める、
おいしい水のある暮らしの実現』

住民一人ひとりが、日常生活のなかでできる小さな環境保全活動を推進するとともに、地域住民が協力して、迫川の下流域市町村に配慮した活動を行い、迫川の良好な水質の確保に努め、おいしい水を享受する暮らしを目指します。

② 地域プロジェクト（例）

地域の取り組みを進めていくにあたり、平地モデルで考えられる具体的活動例を以下に示します。

地域の目標像の実現に向けて、取り組みやすいところから実践していきましょう。

1. 自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保

c 1 【地域の資源をみつけよう】

- ・自分達が住んでいる地域の環境や地域資源について理解を深めるために、地域資源調査を実施していきましょう。
- ※ a 1 【地域の資源をみつけよう】 参照

c 2 【水を大切に使おう】

- ・二迫川、三迫川合流後の迫川の水質の維持向上を図るため、合併処理浄化槽の設置や下水道への接続を進めましょう。
- ・農薬の低減などにより農業排水が河川等に与える環境負荷の低減に努めましょう。
- ・自分たちが利用する飲料水をよりよい状態にするために、上流の人々と協力して取り組んでいきましょう。
- ・下流域の市町村の人々がおいしい水、安心して使える水を得られるよう、住民一人ひとりが限りある水資源を無駄にせず、大切に使う意識を高めましょう。
- ※ a 4 【下流域を意識して水を大切に使おう】 参照

5章 地域別行動計画

c 3 【ホタルの住む水路をつくろう】

- ・水質改善の目標達成の一つの指標として、ホタルが生息する水路づくりを進めましょう。
 - ・ホタルの生息環境がいつまでも守られるよう、地域での水質汚濁の低減のための取り組みや生息地の管理を継続するための仕組みづくりを進めましょう。
- ※ c 2 【下流域を意識して水を大切に使おう】と連動

2. 生物の多様性の確保

c 4 【まちなかの身近な自然を再生しよう】

- ・田園地域の身近な自然を再生するため、多様な生物が生息するための環境づくりの技術を学び、用水路に生物が住みやすい環境をつくりましょう。
 - ・子どもたちの参加による環境づくりやその後の観察会など、環境学習の場として活用しましょう。
 - ・関連機関と連携し、生物のすみかの拡大やネットワークの形成に取り組みましょう。
- ※ c 5 【まちの自然の変遷について調べてみよう】と連動

3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出

c 5 【まちの自然の変遷について調べよう】

- ・地域の自然（林、ため池、田んぼ、水路、生物など）について、昔から現在に至るまでの変遷を調べ、生活との関わりを調べてみましょう。
- ・人々の生活の変化が自然に与えた影響を把握し、将来の地域の自然の望む姿を描き、そのためにすべきことを考え、取り組みましょう。

4. 資源やエネルギーを大切にした循環の仕組みづくり

c 6 【ごみへの関心を高めよう】

- ・ごみ集積所の整備により、ごみの出し方等マナーの改善を図りましょう。
- ・ごみ集積所の整備を通して、ごみ問題全般への関心を高め、地域ぐるみでポイ捨て防止対策や環境美化活動に取り組みましょう。
- ・景観整備活動や環境保全活動を住民が主体となって継続していくための体制づくりを進めましょう。

c 7 【家庭ごみ減量作戦】

- ・市内の家庭ごみの排出量や処分方法、回収・処分にかかる費用などの実態を把握し、ごみへの関心を高めましょう。
- ・家庭ごみ減量のために取り組むべきことを考え、地域全体のごみの減量化に努めましょう。

※ a 9 【家庭ごみ減量作戦】参照

c 8 【地球温暖化防止に取り組もう】

- ・地球全体の温暖化の現状や防止のための取り組みなどを学び、一人ひとりができることを実践していきましょう。
- ・地球温暖化の現状や配慮行動を多くの人に伝え取り組みを広げましょう。

※ b 9 【地球温暖化防止に取り組もう】参照

5. 環境にやさしい産業の創出

○9【田園環境を継承しよう】

- ・平地の美しい田園風景や生物の生息空間を守るため、遊休農地の有効活用を図りましょう。
- ・バイオエネルギー用植物などの栽培により、遊休農地の活用を図りましょう。
- ・荒廃農地の管理にあたっては、農業体験プログラムなどと合わせ、地域外からの参加者を含めた体制づくりを推進しましょう。
- ・低農薬、無農薬などの環境に配慮した農業を促進し、地場産品の高付加価値化により、農業の活性化を図るとともに、安定した農業経営基盤づくりに取り組みましょう。
- ・就農体制の整備を推進し、地域の農業従事者を確保するとともに、地域外からの就農希望者を積極的に受け入れ、農業後継者の育成を図りましょう。

6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成

○10【地域資源を来訪者に知ってもらおう】

- ・農業体験や農村生活体験など、地域の資源を活かした広域的な交流の活性化を図りましょう。
- ・農業体験等を実施している農家と連携し、多くの人に地域の魅力を発信する仕組みづくりを進めましょう。

※b11【地域資源を来訪者に知ってもらおう】参照

7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画

○11【地球温暖化と稲作の関係を調べよう】

- ・田植えの時期や収穫量、害虫の状況などについて、昔との違いや変化を調べ、気候変動との関係を考えながらデータを集めましょう。
- ・米を主食とする東南アジアなどの他の国での稲作における変化や気候変動の影響を調べながら、国際的な情報の交流を図りましょう。

※b12【地球温暖化と稲作の関係を調べよう】参照

8. コミュニティを核とした推進体制づくり

○12【ご近所づきあいを活発にしよう】

- ・地域のごみ拾いや集会所の草刈りなどの身近な地域活動に積極的に参加することにより、地域への関心を高め、地域コミュニケーションの活性化を図りましょう。
- ・地域コミュニケーションの活性化により、誰もが安心して暮らせる、住みやすい地域づくりを進めましょう。

○13【流域が一体となった取り組みを進めよう（迫川、旧北上川などの流域市町村との連携）】

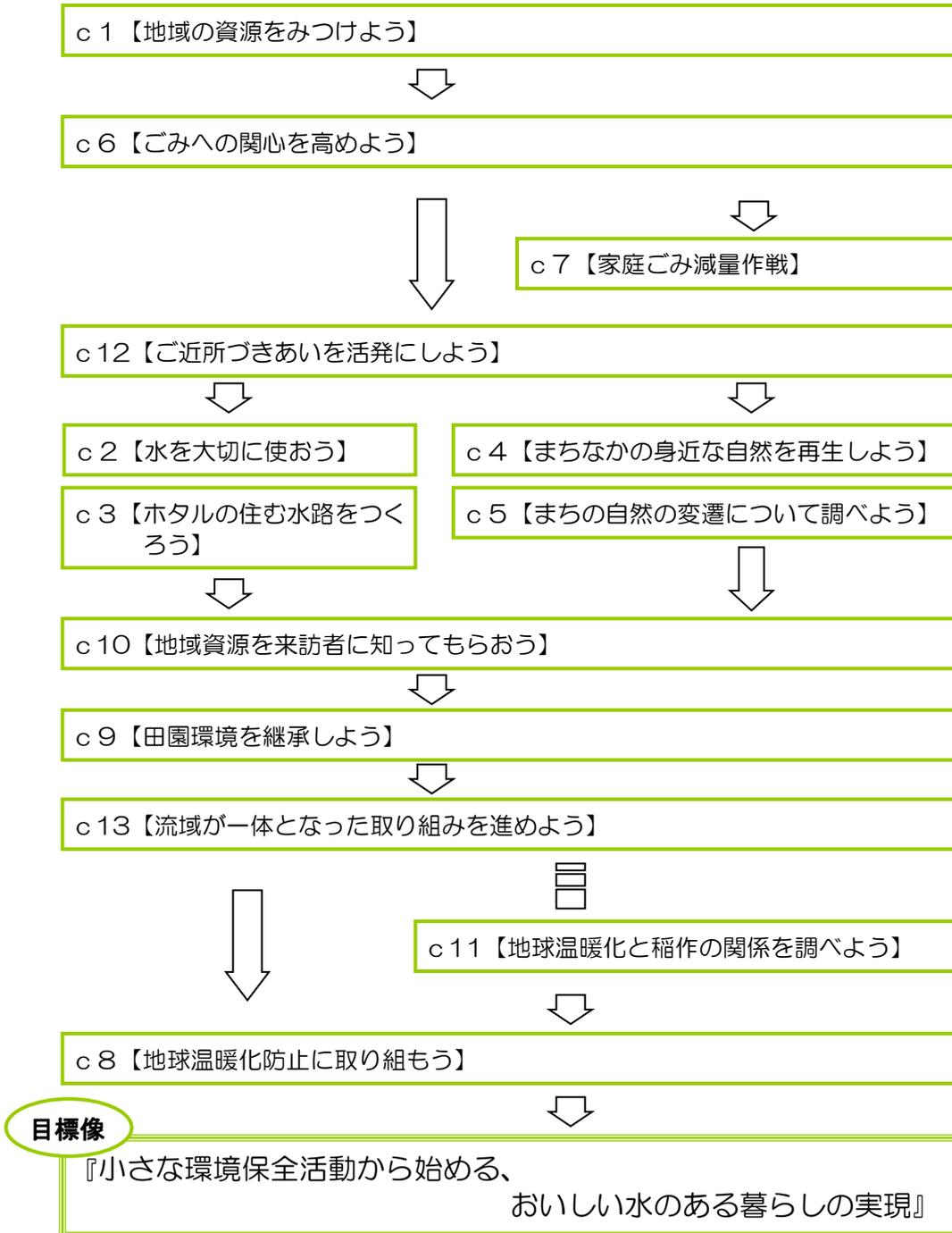
- ・迫川、二迫川、三迫川などの市内上流部の地域との交流により、流域住民が一体となって迫川の水質の維持向上を図る体制をつくりましょう。
- ・登米市を始め、迫川や旧北上川流域の市町村との交流を図り、流域住民の連携による流域全体での河川環境の保全を進めましょう。

※a14【流域が一体となった取り組みを進めよう】参照

5章 地域別行動計画

③ 目標像に向けたプロジェクトの進め方の例

個別の地域プロジェクトを段階的に実践した場合の進め方の例を以下に示します。地域の実情に合わせて目標像の達成に向けた進め方を検討してみましょう。



(4) 中山間地・平地モデル1における地域別行動計画事例

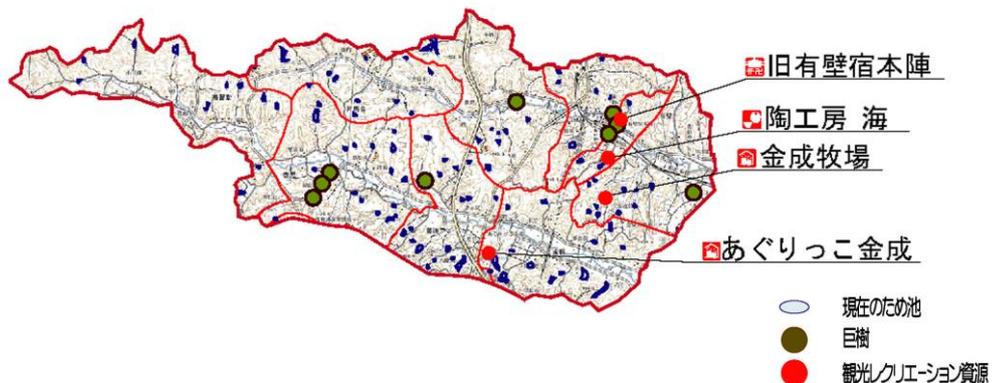
① 地域の主な現況・地域資源及び課題と課題解決のための目標像

■ 現況

- ・有馬川沿いに水田が分布し、ため池が多く残されていますが、管理が不十分なところが多くなっています。
- ・昔ながらの街並みなど、歴史的な景観が残されています。
- ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置や公共下水道への接続が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。
- ・井戸も多くあり、作業用水のほか、飲み水としても利用されています。
- ・地区ごとに清掃活動や草刈り、植栽などの環境美化活動が行われています。
- ・ため池でとれる沼エビを使ったエビ餅などの郷土料理が、現在も受け継がれています。

■ 地域資源

項目	資源
河川・湖沼・ ため池・ダム	有馬川、金流川 ため池
特定植物群落 巨樹・巨木林	スギ（八坂神社）、スギ（観音寺）、ケヤキ（旧有壁宿本陣）、ケヤキ（有壁本町県道沿い）、ヒガンザクラ（熊野神社）、スギ（赤児塚）、スギ（新山神社）、ケヤキ（八幡神社）、ヒノキ（熊野神社）
文化財等	旧有壁宿本陣
観光レクリエーション資源	陶工房 海、金成牧場、あぐりっこ金成



地域資源マップ

■ 課題

- ・ため池の維持管理
- ・水環境の改善
- ・農業における担い手不足
- ・高齢化対策
- ・ごみの不法投棄対策
- ・流域に目を向けた水の使い方の見直し
- ・地域外との交流時における受け入れ体制不足

■ 目標像

『歴史、文化を守り伝える豊かな里山の暮らしの実現』

歴史的景観資源を守り、活かすとともに、昔ながらの生活習慣や地域住民のつながりを見直し、里山のもつ魅力的な暮らしの再生を目指します。

② 地域プロジェクト（例）

地域の取り組みを進めていくにあたり、中山間地・平地モデル1で考えられる具体的な活動例を以下に示します。

地域の目標像の実現に向けて、取り組みやすいところから実践していきましょう。

1.自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保

d 1 【地域の資源を見つけよう】

- ・自分達が住んでいる地域の環境や地域資源について理解を深めるために、地域資源調査を実施してみましよう。

※ a 1 【地域の資源を見つけよう】参照

d 2 【地域の生活と関わりが深い里山の環境基盤をみんなで守ろう】

- ・地域に多く残されているため池や水路などについて、そこから得られる恵みを享受しながら、農業従事者だけでなく、地域住民の参加による維持管理の体制づくりを推進しましょう。
- ・地域外からの参加者も呼び込み、維持管理を進めていくために、収穫やお祭りなどの各種イベントと絡めた仕組みづくりを行いましよう。

d 3 【おいしい水が飲める環境をつくろう】

- ・河川の水質の維持向上を図るため、家庭における合併処理浄化槽の設置、下水道への接続を進めましよう。
- ・農薬の低減などにより農業排水が河川等に与える環境負荷の低減に努めましよう。

- ・流域に暮らす人々がおいしい水、安心して使える水を得られるよう、住民一人ひとりが限りある水資源を無駄にせず、大切に使う意識を高めましょう。

※ a 4 【下流域を意識して水を大切に使おう】 参照

2. 生物の多様性の確保

※ d 2 【地域の生活とかかわりが深い里山の環境基盤をみんなで守ろう】 参照

3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出

d 4 【歴史的な街並みと文化を次世代に伝えよう】

- ・地域の名所や歴史的な街並みの保存に努めるとともに、地域に伝わる歴史や文化を次世代に継承していきましょう。
- ・地域の名所や歴史的な街並みなど地域固有の資源を観光資源として、外部との交流に活用していきましょう。
- ・昔ながらの文化や生活習慣を学び、次代へ引き継いでいく取り組みを進めていきましょう。

4. 資源やエネルギーを大切にした循環の仕組みづくり

d 5 【ごみのないきれいな街並みを残そう】

- ・地域内の環境美化活動を始め、景観資源周辺のごみ拾いや緑化活動など、地域全体の景観整備や保全活動を住民が主体となって取り組み、来訪者が快適に過ごせる空間づくりに努めましょう。
- ・ごみのポイ捨てをなくすための看板の設置、捨てやすい場所をつくらないなどの取り組みを進めましょう。
- ・パトロールによる景観保全に努めましょう。
- ・環境保全活動を住民が主体となって継続していくための体制づくりを進めましょう。

d 6 【家庭ごみ減量作戦】

- ・市内の家庭ごみの排出量や処分方法、回収・処分にかかる費用などの実態を把握し、ごみへの関心を高めましょう。
- ・家庭ごみ減量のために取り組むべきことを考え、地域全体のごみの減量化に努めましょう。

※ a 9 【家庭ごみ減量作戦】 参照

d 7 【地球温暖化防止に取り組もう】

- ・地球全体の温暖化の現状や防止のための取り組みなどを学び、一人ひとりができることを実践していきましょう。
- ・地球温暖化の現状や配慮行動を多くの人に伝え取り組みを広げましょう。

※ b 9 【地球温暖化防止に取り組もう】 参照

5. 環境にやさしい産業の創出

d 8 【安全・安心な大地の恵みを育もう】

- ・低農薬、無農薬などの環境に配慮した農業に取り組みましょう。
- ・地場産品の高付加価値化により、地場産業の活性化を図りましょう。
- ・地場産品の地産地消や宣伝を進め、栗原ブランドの確立を目指しましょう。

5章 地域別行動計画

- ・農業と環境の関わりやその価値について学び、環境配慮型農業へ積極的に参加しましょう。

6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成

d9【地域の繋がりを見つめ直して広域的な交流を進めよう】

- ・現在も行われている地域の行事やお祭りなどを通して、地域住民のつながりを強め、生活環境の向上や地域活動に対する積極的な取り組みのための体制づくりを進めましょう。
- ・農業体験や農村生活体験プログラムなどの実施により、地域外との交流を図り、農業後継者の育成や農業の活性化に努めましょう。
- ・来訪者へのおもてなし意識を高め、地域外との交流を深めることで、地域の活性化を図りましょう。

7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画

d10【地球温暖化と稲作の関係を調べよう】

- ・田植えの時期や収穫量、害虫の状況などについて、昔との違いや変化を調べ、気候変動との関係を考えながらデータを集めましょう。
- ・米を主食とする東南アジアなどの他の国での稲作における変化や気候変動の影響を調べながら、国際的な情報の交流を図りましょう。

※ b 12【地球温暖化と稲作の関係を調べよう】参照

8・コミュニティを核とした推進体制づくり

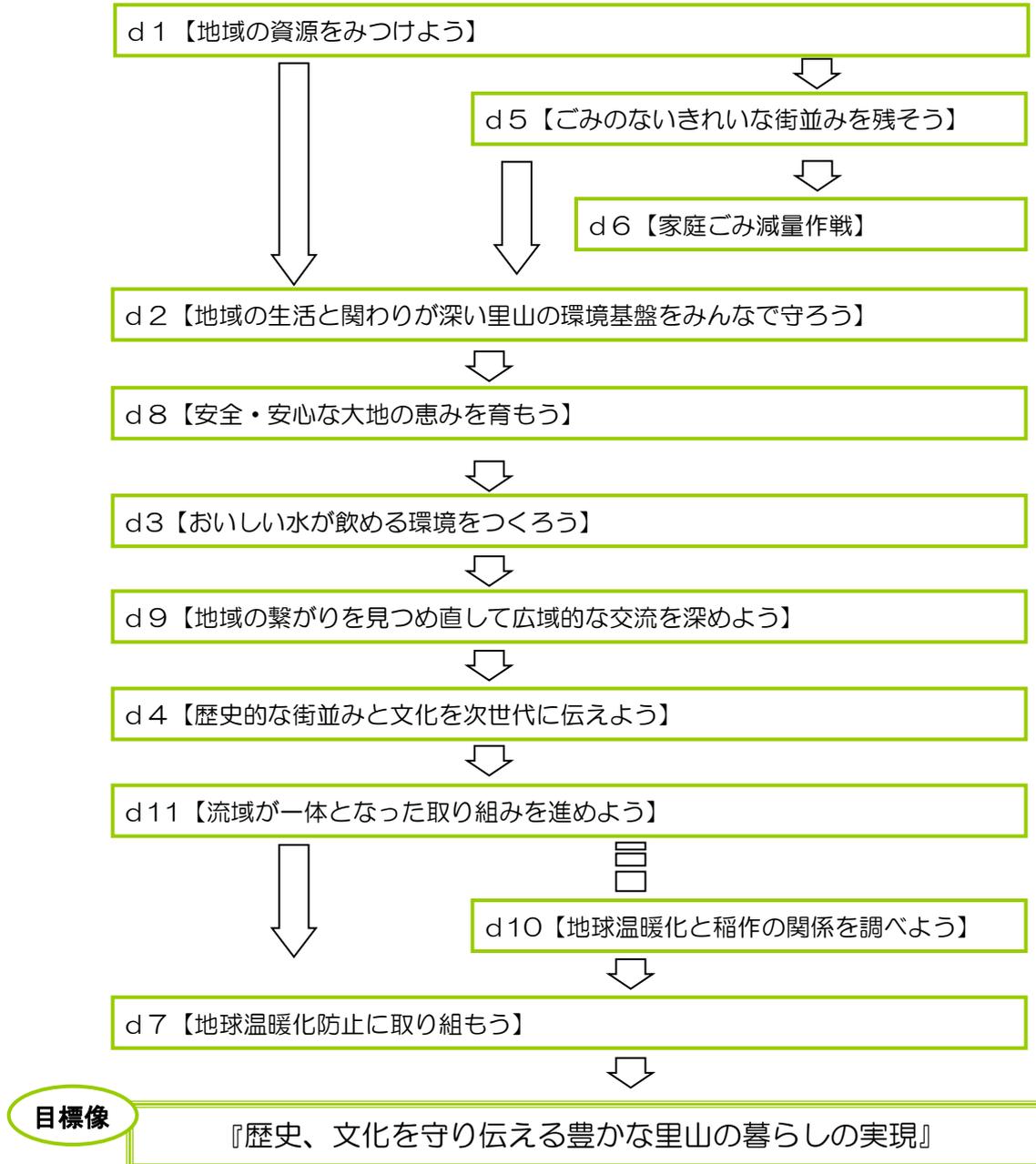
d11【流域が一体となった取り組みを進めよう】

- ・下流域の環境の現状を理解し、市外を含めた流域全体の連携による環境改善に向けた体制づくりを進めましょう。

※ a 14【流域が一体となった取り組みを進めよう】参照

③ 目標像に向けたプロジェクトの進め方の例

個別の地域プロジェクトを段階的に実践した場合の進め方の例を以下に示します。地域の実情に合わせて目標像の達成に向けた進め方を検討してみましょう。



(5) 中山間地・平地モデル2における地域別行動計画事例

① 地域の主な現況・地域資源及び課題と課題解決のための目標像

■ 現況

- ・伊豆沼に流れ込む荒川周辺には水田が分布しています。
- ・井戸も多く残されており、主に作業用水として利用されています。
- ・生活排水の処理は、合併処理浄化槽の設置や公共下水道への接続が進められていますが、直接放流を行っている地区もあります。
- ・地区ごとに清掃活動や草刈り、植栽などの環境美化活動が行われています。
- ・ごみの出し方が徹底されておらず、他の地区からの不法投棄もあります。
- ・地域に関心の低い人や高齢者が増えてきており、地域行事への参加者が少なくなってきました。
- ・中心商店街では、大型店へ顧客が流れるなど活気がなく、後継者不足などの問題も抱えています。

■ 地域資源

項目	資源
河川・湖沼・ため池・ダム	荒川（伊豆沼・内沼）、照越川、八沢川 ため池
特定植物群落 巨樹・巨木林	伊豆沼・内沼の沼沢地植物群落、カヤ（双林寺） イチョウ（志波姫神社）
文化財等	伊豆沼・内沼の鳥類及びその生息地
観光レクリエーション資源	伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター、サンクチュアリセンターつきだて館、スワントピア交流館、いこいの森、渡鳥飛来地



地域資源マップ

■ 課題

- ・伊豆沼・内沼の水質改善
- ・伊豆沼・内沼を軸とした多様な生物生息空間の保全
- ・地区行事や環境保全活動に対する住民の積極的な参加のための仕組みづくり
- ・市内上流地域との交流の活性化、ネットワークの構築
- ・伊豆沼・内沼を基点とした、他市町村との情報交換や国際的な取り組みへの積極的な参加
- ・ごみの分別の徹底と不法投棄防止対策
- ・地域資源を活かした環境教育の推進

■ 目標像

『市民、事業者の協働により 伊豆沼・内沼の自然環境を守る暮らしの実現』

栗原を代表する自然資源である伊豆沼・内沼の水質や多様な生物の生息空間を守るため、伊豆沼・内沼に注ぐ荒川の上流にあたるこの地域の住民一人ひとりが、身近な生活の中での環境に対する意識を高め、積極的に保全活動に参加し、地域内での協力体制を強化するとともに、市内外との交流を深めながら、情報や活動を発信していく暮らしを目指します。

② 地域プロジェクト（例）

地域の取り組みを進めていくにあたり、中山間地・平地モデル2で考えられる具体的な活動例を地域プロジェクトとして以下に示します。

地域の目標像の実現に向けて、取り組みやすいところから実践していきましょう。

1.自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保

e 1 【地域の環境を知ろう】

- ・自分達が住んでいる地域の環境について現況を把握するために、環境調査を実施し、課題をみつけましょう。

e 2 【水質を改善しよう】

- ・市民、農業従事者、企業、専門家など、様々な分野の人々が協力し、水質調査や汚濁原因の調査を行い、水質改善のための取り組みを考えましょう。
- ・伊豆沼・内沼の水質改善のため、上流部の家庭における合併処理浄化槽の設置や下水道への接続を推進し、伊豆沼・内沼の水質向上を図りましょう。

5章 地域別行動計画

2. 生物の多様性の確保

e 3 【伊豆沼・内沼の生き物のすみかを守ろう】

- ・伊豆沼・内沼の動植物の生息環境の保全を図るため、地域住民や地元事業者が協力して清掃活動を進めていきましょう。
- ・伊豆沼・内沼の生態系の保全を図るため、企業や団体の寄付を募り、保全活動を進めていきましょう。

3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出

e 4 【伊豆沼・内沼の自然環境を活かした環境学習をすすめよう】

- ・伊豆沼・内沼の自然環境や既存の学習施設を活用し、市内外の利用者がより快適に環境学習を体験できる仕組みづくりを進めましょう。
- ・伊豆沼・内沼の自然環境学習を通して、子どもたちの地域環境への関心を高め、積極的に環境保全活動に取り組む地域のリーダーとなれるような人材を育てていきましょう。

4. 資源やエネルギーを大切にした循環の仕組みづくり

e 5 【伊豆沼・内沼のごみゼロをめざそう】

- ・伊豆沼・内沼の環境を守るため、ごみが捨てられないための方法を検討し、ごみゼロを目指しましょう。
- ・地域内外の人々が伊豆沼・内沼の環境保全活動に取り組み、継続していくための仕組みづくりを進めましょう。

※ e 3 【伊豆沼・内沼の生き物のすみかを守ろう】と連動

e 6 【家庭ごみ減量作戦】

- ・市内の家庭ごみの排出量や処分方法、回収・処分にかかる費用などの実態を把握し、ごみへの関心を高めましょう。
- ・家庭ごみ減量のために取り組むべきことを考え、地域全体のごみの減量化に努めましょう。

※ a 9 【家庭ごみ減量作戦】参照

5. 環境にやさしい産業の創出

e 7 【田園環境を継承しよう】

- ・平地の美しい田園風景や生物の生息空間を守るため、遊休農地の有効活用を図りましょう。
- ・バイオエネルギー用植物などの栽培により、遊休農地の活用を図りましょう。
- ・荒廃農地の管理にあたっては、農業体験プログラムなどと合わせ、地域外からの参加者を含めた体制づくりを推進しましょう。
- ・低農薬、無農薬などの環境に配慮した農業を促進し、地場産品の高付加価値化により、農業の活性化を図るとともに、安定した農業経営基盤づくりに取り組みましょう。
- ・就農体制の整備を推進し、地域の農業従事者を確保するとともに、地域外からの就農希望者を積極的に受け入れ、農業後継者の育成を図りましょう。

※ c 9 【田園環境を継承しよう】参照

6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成

e 8 【ハス祭りを活かした交流を広げよう】

- ・伊豆沼・内沼のハス祭りを活かし、自然体験や遊びを通じて、来訪者の環境に関する意識を高め、環境保全活動への参加を呼びかけましょう。
- ・来訪者が継続して伊豆沼・内沼の環境保全活動に協力するための仕組みづくりを進めましょう。

7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画

e 9 【伊豆沼・内沼の環境保全を通じた国際的な取り組みとの連携を強化しよう】

- ・ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼の優れた自然環境資源を活かし、市内外の様々な専門家や活動団体、または関心を持つ人々などとの交流の活性化を進めましょう。
- ・渡り鳥の調査を通して、世界との繋がりを実感し、国内の条約湿地を持つ自治体や国外の条約湿地を持つ国や地域及び環境保護活動団体との交流を深めましょう。

8. コミュニティを核とした推進体制づくり

e 10 【地域の環境をみんなに伝え関心をもってもらおう】

- ・地域環境の現状や課題などを広く地域住民に周知し、関心を高めるため、各種イベントなどを活用し積極的に伝えていきましょう。
- ・環境改善の取り組みを広く伝え、多くの人々が協力するための体制づくりを進めましょう。

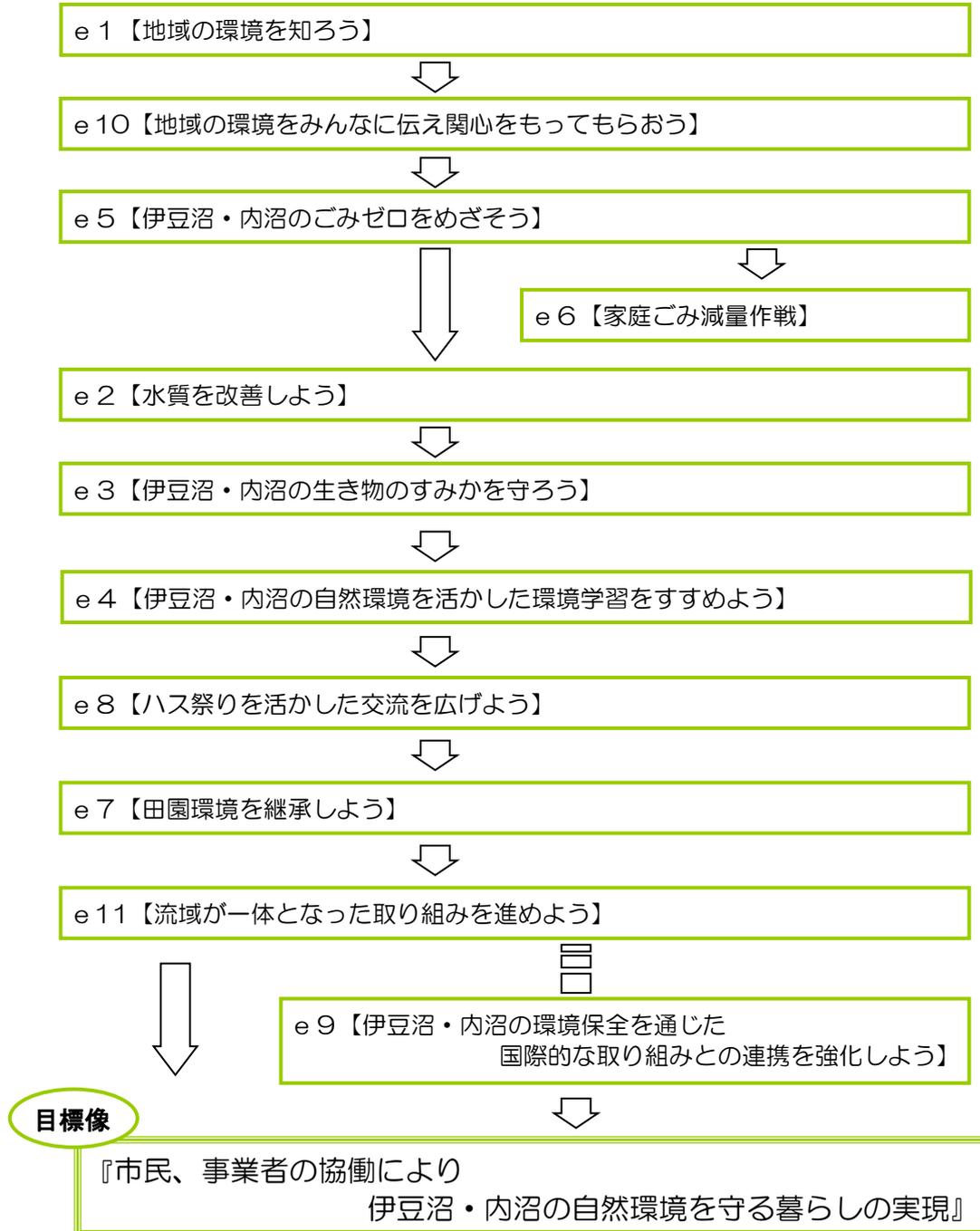
e 11 【流域が一体となった取り組みを進めよう】

- ・伊豆沼・内沼やその下流域の水質改善に向け、流域住民が一体となって保全活動に取り組むとともに、その体制づくりを進めましょう。
- ※ a 14 【流域が一体となった取り組みを進めよう】参照

5章 地域別行動計画

③ 目標像に向けたプロジェクトの進め方の例

個別の地域プロジェクトを段階的に実践した場合の進め方の例を以下に示します。地域の実情に合わせて目標像の達成に向けた進め方を検討してみましょう。





4. モデル別地域プロジェクト例一覧

モデル別地域プロジェクトのアイデア一覧を以下に示します。このアイデアを参考にそれぞれの地域コミュニティ毎、または複数の地域コミュニティで、地域のみなさんが主体的に実施していく取り組み（地域プロジェクト）について検討していきましょう。（検討にあたっては、地域の負担にならないよう出来るところから出来る範囲で実施していくということを念頭に置き検討しましょう。）

以下にモデル別の地域プロジェクト例を示します。次頁以降には参考として地域プロジェクト例の具体例の一部を示します。

モデル別地域プロジェクト例 一覧表

基本方針	迫川、二迫川、三迫川流域			金流川・夏川流域	荒川（伊豆沼・内沼）流域、 小山田川流域、落堀川流域
	山村モデル	中山間地モデル	平地モデル	中山間地・平地モデル1	中山間地・平地モデル2
1. 自然と共生した生活基盤の維持と安心できる生活環境の確保	a1:地域の資源を見つけよう a2:地域の森を知ろう a3:地域の森を守り育てよう a4:下流域を意識して水を大切にしよう a5:地域の水の価値を知ろう	b1:地域の資源を見つけよう b2:生活に密着した里山の自然を守ろう b3:復活!!みどりプロジェクト b4:下流域を意識して水を大切にしよう	c1:地域の資源を見つけよう c2:水を大切にしよう c3:ホテルの住む水路をつくろう	d1:地域の資源を見つけよう d2:地域の生活と関わりが深い里山の環境基盤をみんなで守ろう d3:おいしい水が飲める環境をつくろう	e1:地域の環境を知ろう e2:水質を改善しよう
2. 生物の多様性の確保	a6:多様な生物の生息空間を守ろう	b5:ため池をリフレッシュしよう	c4:まちなかの身近な自然を再生しよう	d2:地域の生活と関わりが深い里山の環境基盤をみんなで守ろう（再掲）	e3:伊豆沼・内沼の生き物のすみかを守ろう
3. 自然や文化的資源を活かした環境学習機会の創出	a7:はたちの記念樹	b6:里山の伝統文化を継承しよう	c5:まちの自然の変遷について調べよう	d4:歴史的な街並みと文化を次世代に伝えよう	e4:伊豆沼・内沼の自然環境を活かした環境学習をすすめよう
4. 資源やエネルギーを大切にしながら循環の仕組みづくり	a8:観光客とともにごみのない地域づくりを進めよう a9:家庭ごみ減量作戦	b7:ごみのない美しい里山をつくろう b8:家庭ごみ減量作戦 b9:地球温暖化防止に取り組もう	c6:ごみへの関心を高めよう c7:家庭ごみ減量作戦 c8:地球温暖化防止に取り組もう	d5:ごみのないきれいな街並みを残そう d6:家庭ごみ減量作戦 d7:地球温暖化防止に取り組もう	e5:伊豆沼・内沼のごみゼロをめざそう e6:家庭ごみ減量作戦
5. 環境にやさしい産業の創出	a10:山を積極的に利用しよう	b10:栗原が育む大地の恵みを発信しよう	c9:田園環境を継承しよう	d8:安全・安心な大地の恵みを育もう	e7:田園環境を継承しよう
6. エコツーリズムを活かした広域的なパートナーシップの形成	a11:森の遊びを通して繋がりを深めよう	b11:地域資源を来訪者に知ってもらおう	c10:地域資源を来訪者に知ってもらおう	d9:地域の繋がりを見つけなおして広域的な交流を進めよう	e8:ハス祭りを活かした交流を広げよう
7. 地球的規模の環境保全への積極的な参画	a12:栗駒山の環境から地球の環境とのつながりを知ろう	b12:地球温暖化と稲作の関係を調べよう	c11:地球温暖化と稲作の関係を調べよう	d10:地球温暖化と稲作の関係を調べよう	e9:伊豆沼・内沼の環境保全を通じた国際的な取り組みとの連携を強化しよう
8. コミュニティを核とした推進体制づくり	a13:地域が協力して安心して暮らせる生活基盤を充実させよう a14:流域が一体となった取り組みを進めよう	b13:地域が協力して安心して暮らせる生活基盤を充実させよう b14:流域が一体となった取り組みを進めよう	c12:ご近所づきあいを活発にしよう c13:流域が一体となった取り組みを進めよう	d11:流域が一体となった取り組みを進めよう	e10:地域の環境をみんなに伝え関心をもってもらおう e11:流域が一体となった取り組みを進めよう

※1 太字は次頁以降に詳細な取り組みステップの解説があります。

a 1 : 【地域の資源をみつけよう】

■ステップ1：仲間をみつけよう

- ・地元の環境や歴史文化などに興味のある人達を集めましょう。
- ・山村エリアでは自然資源や観光資源が多いことから、森林管理者や自然保護団体、観光業の方々といっしょに取り組みましょう。

■ステップ2：資源を探そう

- ①自分たちの地域を外部の人に紹介しようと考えた時、どのようなものかパンフレットをつくるつもりで考えてみましょう。
- ②観光パンフレットにはない、地元の人しか知らない情報も探してみましょう。

～地域資源の見つけ方のポイント～

- | | |
|--------|----------|
| ・自然資源 | ・景観、名所 |
| ・生き物 | ・文化、お祭り |
| ・郷土料理 | ・住民活動 |
| ・古い農機具 | ・昔の生活の写真 |



- ③地域の中で生活する上で問題となっている箇所も見てみましょう。

■ステップ3：活用の仕方を考えよう

- ①調査した結果を地域外の人々に紹介できるように地図を作ってみましょう。
- ②この情報をもとに地域資源の活かし方、地域の環境の守り方、できることについて考えていきましょう。

実践例

地域資源発掘会議 くりはら磨き隊の活動

栗原市では、新しい観光の仕組みを考える場として、「くりはら磨き隊」を創設し、地区ごと（旧町村）に地域の資源を見直し、データベースと資源マップを作成し、観光産業に活用する取り組みが行われています。



a 3 : 【地域の森を守り育てよう】

■ステップ1：森づくりに参加しよう

- ・植樹祭やその他のイベント等に参加するとともに、準備や運営に協力し、多くの人に関心を持つよう工夫しましょう。

■ステップ2：森づくりを広げよう

- ①既存の活動団体を軸に、森の育成や管理の体制づくり、組織づくりを行いましょ。

- ・ボランティアの募集
- ・各種団体との連携
- ・専門業者の協力
- ・植樹用苗木の育成協力
(休耕地の利用・育成補助)



- ②小学校等と連携し、植樹用樹木の里親制度を進めましょ。

- ・植樹祭で種子を渡し、小学校で育ててもら。

→『a 7：はたちの記念樹』

- ・育てた苗木を山に植え、成長過程を身近に見ながら森の大切さを感じてもら。
- ・下草刈や植樹の準備などにも協力してもら。

- ③地域外からの山の資源（山菜や薪）の利用者に対して、管理の協力が得られるような仕組みづくりを進めましょ。

- ④同じ水源を持つ流域内の他の地域の人々にも積極的に呼びかけ、流域全体で森づくりを進めましょ。

■ステップ3：森づくりを続けよう

- ①小学校や各種団体との連携を強め、森づくりを継続し他の土地でも取り組んでいましょ。

- ②地元企業や山の恵みを受けている企業などと連携し、森づくりのPRに取り組ましょ。

- ③間伐材などの有効利用をすすめ、資源の循環を図りましょ。

実践例

植林作業

栗駒高平地区の荒廃地の森林復元を目指し、栗駒の自然を守る会の主催で「昭和の日（旧みどりの日）植林」として4月29日に、市民や自然保護団体、協賛企業が参加し、植林作業が行われています。



a 7 : 【はたちの記念樹】

■ステップ1：小学校の卒業記念に6年生で栗駒山に植樹をしよう

- ①栗原市内の小学校に呼びかけ、各学校の6年生の代表者に植樹に参加してもらいましょう。
- ②植樹の記念として、ブナなど広葉樹の種子と用土を渡し、各家庭で育ててもらいましょう。

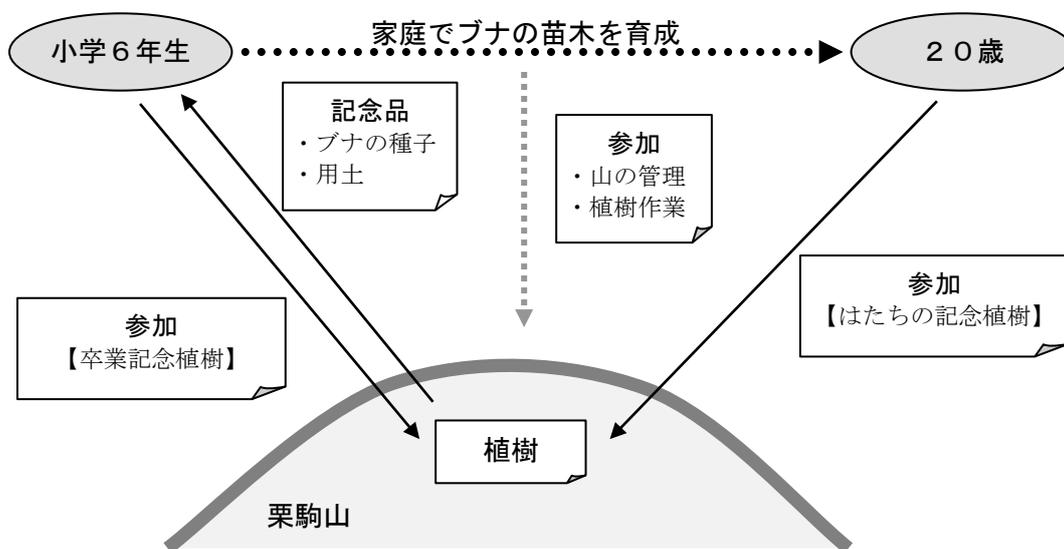


■ステップ2：ブナなどの広葉樹を育てよう

- ①種子を渡す際、子供達にブナなど広葉樹の育て方を教えましょう。（手引き書の作成）
- ②“はたちの記念樹ホームページ”を開設し、育て方の説明や質問、情報交換ができる場を設けましょう。
- ③ブナなどの広葉樹を育てながら、植樹場所の管理作業にも参加してもらうなど、栗駒山との繋がりを持ち続けてもらいましょう。

■ステップ3：20歳の記念に育てた苗を栗駒山に植えよう

- ・小学6年生から育てた苗を20歳の記念に栗駒山に植樹してもらいましょう。
- ・自分が育てた苗の植樹作業など、森を再生する過程に立ち会うことで、森林の大切さや地域への愛着心を育てましょう。



b 10 : 【栗原が育む大地の恵みを発信しよう】

■ステップ1：地域で環境に配慮した農業を行っている人を探そう

- ・地域で環境に配慮した農業に取り組んでいる人の話を聞きましょう。
- ・自分たちの地域で取り組んでいる人がいない場合は、他の地域の事例を見学しに行きましょう。
 - 例) ・無農薬や低農薬による栽培
 - ・化学肥料の不使用や化学肥料の低減による栽培
 - ・有機質堆肥や厩堆肥による栽培
 - ・冬期湛水（冬水たんぼ）
 - ・不耕起栽培

■ステップ2：環境に配慮した農業を体験しよう

- ①作業を手伝いましょう
 - ・環境配慮型農業の圃場の見学や実際の作業のお手伝いをしてみましょう。
 - ・通常の作業との違いを体験しましょう。
- ②農業体験を企画しましょう
 - ・環境配慮型農業の体験プログラムを企画しましょう。
 - ・収穫体験や郷土料理のもてなしなどにより、地域の安全・安心な恵みを知ってもらいましょう。
 - ・体験農業を通して、新たな担い手の育成に努めましょう。
- ③体験農業を実施しましょう
 - ・地域内外からの参加者を募り、体験農業を実施しましょう。
 - ・ホームページや広報誌などにより、広域的に参加を呼びかけましょう。

■ステップ3：栗原の大地の恵みを発信しよう

- ・環境配慮型農業による農産物や加工品など、商品開発を含め、栗原が誇る大地の恵みを広くPRしていきましょう。
- ・自然にやさしく、安全、安心な農産物の価値を多くの消費者が理解し、消費につなげていくような仕組みを考え、持続的な取り組みにつなげましょう。
- ・遊休農地の活用について、検討しましょう。

実践例

農産物直売施設「あやめの里」

産直施設は、生産者が分かり、消費者は安心して農産物を購入することができます。

市内には現在、15箇所の農産物直売施設があります。



b11：【地域資源を来訪者に知ってもらおう】

■ステップ1：良好な里山環境が残っているところを探そう

- ・農林業や農村生活と関わりの深い生き物を探しましょう。
- ・昔ながらの農法で農業を行っている人や農地を探しましょう。

■ステップ2：里山の資源を活かした自然体験プログラムをつくろう

①地域の歴史や成り立ち、自然との共生文化や生き物、季節の花などを調べましょう。

②地域の資源を活かした自然体験プログラムをつくりましょう。

- ・自然観察や地元産品を使った加工品づくり、昔ながらの農業体験など、地域の自然や資源に触れる機会となる自然体験プログラムをつくりましょう。

- 例)
- ・田んぼ、ため池の生き物観察会
 - ・季節の花の観察会、押し花づくり
 - ・山菜採り、きのこ採り
 - ・炭焼き
 - ・木工（竹細工、藁細工）
 - ・郷土料理講習会
 - ・農業体験→『b10：栗原が育む大地の恵みを発信しよう』と連携



③環境サポーターを育てよう

- ・地域の魅力を広く後世に伝え、里山の環境を守っていくために、自然体験プログラムを通して、その指導者となる人材を育てましょう。

■ステップ3：地域の魅力を伝えよう

- ・地域内外からの自然体験プログラムの参加者を募り、地域の資源の魅力を伝えるとともに、自然体験プログラムでの活動を通じて、里山の環境保全への協力を呼びかけましょう。

実践例

一迫長崎の水車

一迫林業研究会では、都会と地元の子どもたちを対象に、林間学校を開催し様々なプログラムを企画しています。

子ども達が杉の間伐材を使って作った水車は、地域の景観要素の一つとなっています。



c 3 : 【ホタルの住む水路をつくろう】

■ステップ1：水質の目標を決めよう

- ①水質汚濁の原因や川と昔の暮らし、現在の暮らしとの係わりを探り、なぜ水質改善が求められているのかを明確にしてみましょう。
- ②水質改善の目標値や達成までのスケジュールを考えましょう。

■ステップ2：情報を伝え、地域みんなで取り組む体制をつくろう

①情報を伝えましょう

- ・水質改善の目標や取り組み内容など、自治会等の地域組織を通して、地域の全ての世帯に情報を伝えましょう。

～取り組み内容の例～

- ・洗剤の使用量を減らす
- ・環境にやさしい洗剤を使用する
- ・調味料や洗剤を多量に流さないようにする
- ・アクリルたわしを使用する



②地域で取り組む体制をつくろう

- ・役割を決めてチームをつくり、取り組みの推進体制を強化しましょう。

～役割分担の例～

- ・水質の調査
- ・下流の視察
- ・取り組みの具体方策の提案
- ・情報収集・発信

③家庭の浄化設備の設置を推進しましょう

- ・新築や改築時の下水道接続や浄化槽の設置を呼びかけましょう。

■ステップ3：ホタルの住める水路をつくろう

- ・水質改善に向けた取り組みと平行して、ホタルの住める環境づくりを進めましょう。

～ホタルの住める環境づくりのポイント～

- ・ホタルの生態と生息環境に関する調査
- ・水路の調査
- ・場所の選定
- ・護岸の整備
- ・植生の回復



沢辺ゲンジボタル発生地

c 7 : 【家庭ごみ減量作戦】

■ステップ1：栗原のごみについて調べよう

- ①ごみの排出状況を調べてみましょう。
 - ・住んでいる地域や栗原市で排出されるごみの量や種類、処分方法、それににかかる費用などを調べてみましょう。
 - ・住んでいる地域のごみの状況を他の地域と比べてみましょう。
- ②ごみ処理の施設マップを作りましょう。
 - ・ゴミ処理施設やリサイクル施設、地域内で資源回収を行っている商店などの施設マップを作成し、ごみについての理解を深めましょう。

■ステップ2：ごみを減らす方法を考えよう

- ①家庭ごみを減らす方法を考えてみましょう。
 - ・生活の中で、ごみを減らす方法を考えてみましょう。
 - ・他の市町村の取り組みも参考にしてみましょう。
 - 例) ・スーパーのレジ袋をもらわない
 - ・包装の少ない商品を選ぶ
 - ・資源ごみのリサイクルを徹底する
 - ・生ゴミを堆肥化する
- ②家庭ごみの減量化を実践しましょう。
 - ・実際に、ごみを減らすために一人ひとりが取り組みましょう。
 - ・各家庭の減量目標をたて、取り組んでみましょう。
- ③目標の達成度や取り組み内容を評価しましょう。

■ステップ3：ごみの減量化に地域で取り組もう

- ①地域全体で減量化に取り組むために、地域住民に取り組みを周知し、体制作りを進めましょう。
- ②地域でも減量目標を設定し、達成度や取り組み内容を評価しましょう。

実践例

コンポストを使った生ごみの堆肥化

家庭ごみの減量方法の一つとして、生ごみの堆肥化があります。電動の生ごみ処理機のほか、コンポストや密閉容器、ダンボールなどを使って、生ごみを堆肥化することができます。



d 2 : 【地域の生活と関わりが深い

里山の環境基盤をみんなで守ろう】

■ステップ1：ため池さらいをしてみよう

- ・中山間地のいたるところにあるため池は、中山間地で稲作を行うには欠かすことのできない水瓶であるとともに、いろいろな生き物が住む身近な水辺環境でもあります。学校などと連携して、ため池さらいを行い、生き物調査をしてみましょう。

■ステップ2：里山についても考えよう

- ①コナラ林の管理の現状を調べてみましょう。
 - ・かつてコナラ林は、薪炭林として、7～8年のサイクルで伐採され適度な状態を維持してきましたが、現在では、ほとんど利用されなくなりました。身近なコナラ林が現在どのように管理されているか調べてみましょう。
- ②コナラ林の管理方法を考えてみましょう。
 - ・都市部では薪ストーブなどの利用が注目されており、自分で薪を調達したいニーズもあることから、一緒に山の管理について考え、実践してみましょう。

■ステップ3：活用の仕方を考えよう

- ・ため池や里山の利用価値について考えてみましょう。
- ・管理後のため池から採れる魚類の調理方法や、里山の伐採後の木材の利用方法や里山の歩き方・遊び方などいろいろと考えてみましょう。

～里山の活用方法の例～

- ・木材→薪ストーブ、ほだ木
- ・里山→山菜、キノコ、木の実、薬草



実践例

有壁地区の郷土料理

ため池には、コイ、フナを始めたくさん生き物がいます。このなかでも沼エビやドジョウなどは、昔から、貴重なタンパク源としてエビ餅やドジョウ汁として調理され地元の食材を用いた郷土料理として親しまれてきました。



d 8 : 【安全・安心な大地の恵みを育もう】

■ステップ1：地域で環境に配慮した農業を行っている人をさがそう

- ・地域で環境に配慮した農業に取り組んでいる人の話を聞きましょう。
- ・自分たちの地域で取り組んでいる人がいない場合は、他の地域の事例を見学しに行きましょう。

- 例)
- ・無農薬や低農薬による栽培
 - ・化学肥料の不使用や化学肥料の低減による栽培
 - ・有機質堆肥や厩堆肥による栽培
 - ・冬期湛水（冬水たんぼ）
 - ・不耕起栽培

■ステップ2：お手伝いをしてみよう

- ・環境配慮型農業の圃場を見学し、実際の作業のお手伝いをしてみよう。
- ・住んでいる生き物についても調べてみよう。



■ステップ3：顔の見える関係をつくろう

- ・環境に配慮した農業の大切さを学び、地域の環境を守るためにかかる苦勞を理解しながら、地元食材の購入を行いましょう。
- ・農産物の加工による新しい商品の開発やPRの仕方を考えながら消費者と顔の見える関係を作っていきましょう。

実践例

里山清酒と冬水たんぼの純米酒

有壁地区の地元酒造の萩野酒造では、里山の湧水を用い、昔ながらの製法により寒冬季に「寒仕込み」で醸造しています。

平成18年度から、農薬も化学肥料も使わない冬水たんぼのお米で「寒仕込み」が行われました。



d 9 : 【地域の繋がりを見つめなおして

広域的な交流を進めよう】

■ステップ1：地域で行われるお祭りやイベントに参加しよう

- ①地域で行われるお祭りやイベント、その他の行事に積極的に参加するよう心がけましょう。
- ②行事の実行委員とともに、より多くの人に興味を持ち、参加するよう、行事の内容を見直し、参加を呼びかけましょう。

■ステップ2：地域の繋がりを強める体制をつくろう

- ・地域の行事を通して住民のつながりを深め、そのほかの活動にも挑戦しましょう。そのために、地域の様々な団体(子ども会、婦人会、福祉団体、サークル、企業など)代表者や自治会などを中心に、地域住民の参加を募り、生活環境の向上や環境保全活動のための体制づくりをしましょう。

例) ・各種団体代表者、有志等による活動計画の立案・推進と役割分担

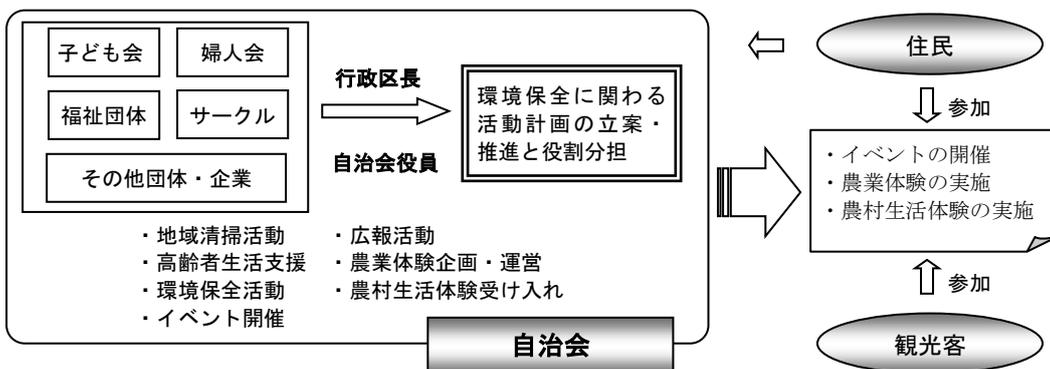


- ・行政区内住民への活動参加の呼びかけ
- ・地域清掃活動、高齢者生活支援活動、環境保全活動等の実施
- ・イベント等の開催

■ステップ3：地域外の人との交流を深めよう

- ①地域のお祭りやイベントに地域外の人への参加も呼びかけましょう。
例) 市広報誌、ホームページ等の活用
- ②伝統芸能や郷土料理などにより地域外の人に対するおもてなし意識を高め、交流を深めましょう。
- ③地域の資源を活かした農業体験や農村生活体験プログラムを企画・運営し、地域外の人への参加を募り、地域に関心を持ってもらいましょう。
- ④体験プログラムを通して、農業後継者の育成や農業の活性化に取り組みましょう。

■自治会での環境保全活動のための体制づくりの例



e 8 : 【ハス祭りを活かした交流を広げよう】

■ステップ1：伊豆沼・内沼の観光を盛り上げ、人々の交流を活性化させよう

- ・伊豆沼、内沼のそれぞれのハス祭りの内容を充実させるとともに、観光客の増加による交流の活性化を図りましょう。
～ハス祭り活性化の例～
- ・土日には地域資源を使った料理や加工品の販売を行う
- ・ハス祭り参加記念品をつくる（ハスの葉・花・レンコンなど）
- ・沼やハスに関連したコンテストの開催（フォトコンテスト、保全活動など）
- ・コンテスト上位入賞者にハスの種や地域の食材などを贈呈する



■ステップ2：お祭りを通して、環境保全活動に参加してもらおう

- ①体験型観光のプログラムで沼を知ってもらいましょう
 - ・ハスを鑑賞するだけでなく、沼の資源を使った自然体験型のプログラムを考えてみましょう。
例) ・沼に生息する動植物の観察会
 - ・釣り体験
 - ・ハスと地元の食材を使ったエコクッキング
- ②沼の環境保全活動を手伝ってもらいましょう
 - ・体験プログラムの中で、ごみ拾いや水辺の下草管理、ブラックバスの駆除などを手伝ってもらいましょう。

■ステップ3：お祭りを伊豆沼・内沼の環境保全活動につなげよう

- ・お祭りを通じた交流により、多くの人に伊豆沼・内沼の環境問題、環境保全に関心を持ってもらいましょう。
- ・お祭り以外の時の環境保全活動への参加を呼びかけましょう。
- ・観光収入を環境保全活動に役立て、活動を充実させましょう。

実践例

ハス祭り 沼上遊覧船でのハス鑑賞

毎年7月末から8月末のハスの開花時期にあわせて「伊豆沼・内沼ハス祭り」が開催されます。期間中は小型遊覧船が運航され、湖上からハスが観覧できます。

